



社会医療法人近森会

発行 ● 2011 年 12 月 25 日

ひるば

1

Vol.306

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目 1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

2012・年頭所感

「質を伴った量的拡大の時代へ」

社会医療法人近森会理事長

近森 正幸



「現場の力」

昨年は4月の管理棟の完成に引き続き、11月7日には外来センターがオープンし、予約専門外来として専門性の高い外来診療を行なっております。ERでの救急対応と相まって、急性期病院の外来のあるべき姿を追求しています。現在建設中の北館病棟は今年春には完成し、新館では全面的な改築のために1階、2階フロアで解体工事や耐震工事を行っております。

今回のプロジェクトにおいて、設計の段階から工事の施行、案内標示、実際の運営など、細かい打ち合わせを重ね引越してから片付けまで、スタッフにはたいへんな苦勞を掛けております。とくに外来センターの開設にあたっては、スタッフの「現場の力」をまじまじと見せていただき、外来センターの運営を実にスムーズに始めることができました。感謝に堪えません。

平成4年の新館建設の頃と比べて大きく違った点は、設計から運営まで、すべて企画課を中心とした管理部が現場のスタッフと共に作り上げてくれたことでした。これもこの20年間、私どもが進めてきたマネジメントが大きく花開いた結果のように思います。

機能の絞り込み

近森病院は救急、紹介、専門外来へ病院の外来機能を絞り込み、10年前から落ち着いた患者さんを地域のかかりつけの先生方をお願いしてまいりました。高機能急性期病院に入院機能を絞り込むことで、急性期病院のスタッフ数100床当たり250人以上という厚労省の2025年までの長期目標を達成し、現在270人のスタッフをすでに充実させることができています。

また、病棟機能を絞り込み、重症患者さんは重症病棟に、病状が安定すれば一般病棟へ移ってもらっています。手間のかかる重症患者さんをICUやCCU、救命救急病棟でみて、多くの看護師を配置することで看護師にとっても働きやすく、患者さんにとっても安心して入院できる病棟になりました。

日本でも有数のチーム医療

近森会グループ全体では早くからチーム医療を実践しており、医師、看護師ばかりでなく、コ・メディカルや事務をそれぞれのコア業務に絞り込み、質を向上させ、労働生産性を高めています。現在、リハビリや栄養サポートのチーム医療が脚光を浴びておりますが、臨床工学技士や薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、メディカルソーシャルワーカー、そして管理部のスタッフも積極的にチーム医療に参画しており、おそらく日本でも有数のチーム医療が行われている病院ではないでしょうか。

452床の急性期病床へ

今回、近森病院の全面的な増改築工事に伴い、南国市稲生の千屋崎病院114床の委譲を受け、2年半後には338床の近森病院は452床の高機能の急性期病院となります。

今年春の北館病棟の利用開始によって、新館4階で救命救急病棟、ICU、CCUの重症患者さん、新館5、6階で超急性期の患者さんに対応し、北館病棟は入院2週間以降の患者さんの病棟となります。全館が内科系と外科系に大きく分かれ、原則として全病棟が混合病棟となり、看護部にはたいへんな苦勞を掛けることとなりますが、この時期を乗り越えることで近森病院の看護の幅が広がり、全人的な看護が出来るようになるのではと期待しています。

新本館が完成した時点で、北館病棟の医療機能の如何で、452床すべてが急性期病床として機能するかしなかが決まります。近森病院の高機能急性期病院の将来の命運は、先生方はじめ、病棟師長さん、その他多くのスタッフの双肩にかかっております。

未来を見つめて

近森会グループは、常に自己変革し、医療の変化に対応し、時代のニーズに合った医療を実践してまいりました。今後、多くの建物や医療機器、システムの充実のためのハードの先行投資が増加し、これからの2年半、さらなるマンパワーの充実と質の向上を急がなければなりません。こうした量的拡大の果実が実るのは3年から5年先になります。未来を見つめ、しっかりと気を引き締めて、みんなで歩んでいこうではありませんか。 ちかもり まさゆき

胃、食道、大腸にできた 早期癌に対する内視鏡治療 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)

ねんまく か そうはくりじゅつ

近森病院消化器内科部長
岡田 光生



胃癌は日本人に多い癌であり、年間約 20 万人が罹患します。進行癌では手術が必要ですが、ごく早期の癌は内視鏡で切除することで身体に負担が少なく後遺症もなく治療が可能です。

従来は、スネアーという金属製の輪でしばって切除する方法（内視鏡的粘

膜切除術：EMR）で治療していましたが、病変の大きさや場所によって切除できない症例があり、早期胃癌の約 10% の症例にしか治療できませんでした。

近年、ナイフ（電気メス）を使って癌を一括で切除する治療法（内視鏡的

粘膜下層剥離術：ESD）が開発され、これにより EMR では切除困難であった症例でも治療可能となり、早期胃癌の約 60% の症例は内視鏡切除が可能となりました。

ESD は 2006 年に早期胃癌に対して保険適応となり盛んに行われるようになりました。2008 年には早期食道癌も保険適応となり、早期大腸癌に対しては現在保険適応取得が進められています。当院でも ESD を導入し、早期癌の治療を行なっています。

早期癌は無症状のことが多いので胃カメラや大腸カメラを積極的に受けられることをお勧めします。

おかだ みつお

日本の医師教育の中で、救急外来や入院中の患者さんの診断や治療については二重三重の上級医のチェックシステムがありますが、外来の患者さんのフォローについては、きちんとした教育システムが乏しく、若い頃から個々の医師が自分の経験の中から試行錯誤しながら身につけていくようになっていきます。

私が近森病院に赴任したころは、若い先生ばかりでしたので、循環器や複雑な内科疾患の患者さんはすべて退院後初外来で私がチェックし、問題点を整理しなおし、薬剤の再調整を行い、その後は若い先生と交互に診ながら薬の使い方、症状の変化時の対応、必要な検査などを教育してきました。今では部科長の先生も増えて、だいぶ役割分担してもらっていますが、これからも外来でのダブルチェック体制は続けていきたいと思っています。

私の流儀 9 外来教育



近森病院副院長
はましげ なおひさ
浜重 直久

たとえば、心筋梗塞や心不全の患者さんが退院した場合、退院後の活動度や食生活の変化などで薬の種類や用量の再調整が必要な場合が少なくありません。また長期にわたるフォロー中には心臓の event として①狭心症、心筋梗塞の再発、②心不全、③不整脈など、心臓以外の event として、①脳卒中、②癌、③感染症などを合併することは決して少なくありません。こうした event をどう予防し、予知し、早期診断するために、状況に応じてどういう検査が必要なのか身につけてもらうことも、重要な教育の一つと考えています。

最近では、病診連携でかかりつけの先生にお返しすることが多くなりました。当院の若い先生達だけでなく、後輩のかかりつけ医の先生方にも、私なりに同じ病院で長期間患者さんをフォローするなかで身につけたことを少しずつでも伝えていけたらと思っています。

私の趣味 近森アスレチッククラブ



近森病院内科科長
市川 博源

昨年に続き、近森アスレチッククラブメンバー 9 人で、11 月 13 日に第 27 回さめうらの郷湖畔マラソンに参加してきました。会場にはメンバー以外で近森病院職員、元職員の方々の顔もみられました。

早朝は肌寒かったのですがスタート前には快晴となり、さわやかな風の後押しされながら 6km コースと 11km コースに分かれてスタートし



第 27 回さめうらの郷湖畔マラソンに参加しました。コース途中にはいろいろありましたが、結果は全員完走！ 昨年より時間を縮めた方が多く、研修医の徳重先生、要先生は大会全体でも好記録でゴールしました。

夜はもちろん恒例の反省会で、酔いながら各自の走りを熱く語りあいました。皆さん早くも次の他の大会のエントリーを考えていて、仕事にも趣味にも真剣な近森魂を感じました。ということで引き続きメンバーを募集しております。（マネージャーもお願いします）

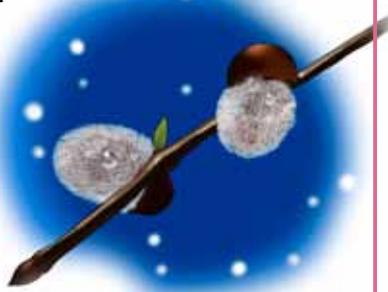
いちかわ ひろもと

1月の歳時記 ネコヤナギ

障害者福祉サービスセンター
ウェーブ 高橋 七瀬



花穂の形はまさにネコのしっぽ。花は 3 月ですが、この時期から芽吹く銀白色に光るモコモコとした穂が何とも可愛らしく、つい笑みがこぼれます。訪れる春を感じるとともに、小さい頃に作った正月の飾りや花穂を摘んでままごとの道具にして遊んだことを思い出します。 たかはし ななせ



絵・総務課広報担当 公文幸子

ナラティヴ「主任の語り」

近森会統括看護部長
梶原 和歌

ナラティヴには「物語」という意味があります。医療や看護の世界では患者さんの語る病の体験を医療者が共有し紡ぎ合って対話を深め、新しい解決に向ける取り組みとして活用されています。

当会看護部では「主任のナラティヴ」を通して看護師の道を選んだ理由、これまでの看護人生の中で出会った喜び、悲しみ、そして未来への夢について語っていただき、刺激を受け、自分の看護観を豊かにしようというプログラムがあります。

先日、内科外来の岩井千代美さんの語りがありました。彼女は幡多郡大月町の出身で8人家族のおばあちゃん子でしっかり愛情と躰の両方をいただいて成長しました。中学3年の進路決定の際、両親は夜勤もあって厳しい仕事だからと賛成しなかったけれども祖母が「これからは手に職をつけちゃった方がええ。将来結婚して子供が大きく

なっても又仕事もできる。万が一旦那さんが変な人で別れた時も生活していけるけんええと思うよ」と賛成してくれたそうです。

県立高知東高校看護学科入学、県立幡多高等看護学院卒業そして就職。看護の姿勢の原点は、胃がん末期の患者さんで奥さんが付き添い仲良かったご夫婦が彼女の卒業の日、会い

たいと言って下さったのに、何て声をかけてあげたらよいか分からず結局行けなくて今でもあの時に戻れたら、と後悔し、だから、その時々のお会いを特に大切にしようと思っていることなどを話してくれました。内科や整形外科、外来看護どこに異動しても糖尿病を合併されている方が多いことを実感し、来春は糖尿病看護認定看護師の資格取得のために岡山県立大学へ長期研修出張の予定です。岩井さんの人生の語りから言葉の力・言葉が現実を作り出す重みなどについてひと時を共有しました。忙しい、慌ただしい日常だからこそ、ナラティヴ・アプローチから何かを得たいですね。 かじはら わか

第91回日本神経学会中国・四国地方会を
開催してランチョンセミナーで
講演中の東海林先生近森病院神経内科主任部長
山崎 正博

10数年ぶりに高知で日本神経学会中国・四国地方会を開催した。脳卒中な

ど血管障害の他、脳炎や髄膜炎などの神経感染症、パーキンソン病や神経筋萎縮症などの神経変性疾患、ギラン・バレー症候群など神経免疫性疾患、筋疾患など神経内科疾患の特徴である頭から足先までの中枢神経から末梢神経にいたる神経組織独特の病気の他、内科疾患に伴う神経症症状例の報告など近森病院の2題を含め55演題の発表が行われた。

最低気温2.8度という真冬の寒さのなか、中四国から144名の学会員の参加をいただき活発な討議が繰り広げられた。ランチョンセミナーでは弘前大学神経内科教授の東海林幹夫先生をお迎えして「アルツハイマー病一診断と治療の新たな展開」のご講演をいただいた。神経内科医の少ない高知県での準備はたいへんであったが学会事務局を近森病院内科に置き、高知大学老年病科の協力も得て開催できた。

準備段階から半年間にわたって内科秘書を含め多数の職員にご協力をいただき近森病院の底力を示すことができましたと思います。 やまさき まさひろ



佐野正彦先生



葛目大輔先生

よき友くすし

18

「こころ」と「からだ」の症状を

チェックしてみましょう

近森病院第二分院薬部
主任 美崎 益代

- 夜ねつけない。夜中に目が覚める。
- 最近疲れやすくなり、気力がわいてこない。

など。うつ病になると、「こころ」と「からだ」の両方に不調があらわれて元気がなくなったり、思うように動けなくなることがあります。

「うつ病」の治療では休養と薬物治療が大切です。長く「うつ状態」が続く方は脳内の神経伝達物質が少なくなっているといわれています。この物質を補うために「薬」が必要となります。

最近ではさまざまなタイプの「抗うつ薬」があり効果も安定しています。うつ病は特別な病気ではありません。だれにでも起こる病気です。早期治療で慢性化を防ぎましょう。

みさき ますよ

新年を迎え、みなさま心身ともに穏やかでいらっしゃいますか？ 私たちはいろんな「ストレス」に囲まれて生活しています。この頃、「しんどいなあ、思うように動けなくなったなあ」と感じられている方、「こころ」と「からだ」の症状をチェックしてみませんか？

たとえば

- 最近、毎日のように一日中憂うつな気分が続いている（ここ2週間以上）
- 自分は価値がない人間だ、この世から消えてしまいたい。

看護部院内勉強会「野末聖香先生をお招きして」

リエゾンナースの活用

近森病院老人看護専門看護師
看護師長 岡本 充子



講演中の野末聖香先生



12月1日、慶応義塾大学看護医療学部教授の野末聖香先生を講師に「リエゾンナースの活用」についての研修会が開催されました。

野末先生のリエゾン精神専門看護師としての経験をもとに、リエゾンナースが現場でどのような活動をしているのかを紹介して

いただきました。

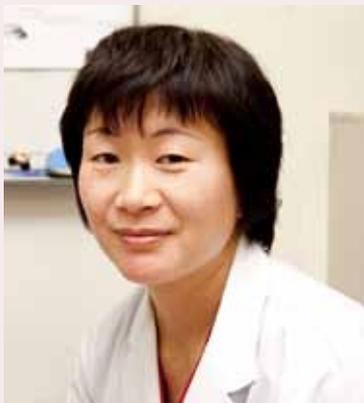
現場では、患者に対する心理面のアセスメントや心理的サポートができていない、今後心理的サポートの充実が必要だと感じています。その悩みに対し、リエゾンナースは、精神看護の知識や技術をその他の領域の看護に適用し、医療スタッフ間の連携を推進することによって、身体疾患を抱える人々に、より包括的で質の高い看護サービスの提供に向けた支援をしてくれます。

今回の研修会を通じて、リエゾンナースの必要性を改めて実感するとともに、心理的サポートを充実していくために、精神科チームとどう連携していけばよいのかについて考えることができたのではないかと思います。

おかもと じゅんこ

「乞! 熱烈応援」

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部心理室
臨床心理士主任
和田 寿美



この4月に仲間が増え、喜びと同時にたいへんさを実感していたところに、今回は主任の役を拝しました。心理士に対する期待の大きさと責任の重さを感じ、当初は非常に重荷に感じていました。

しかし、そこは「自分にできることしかできない」と切り替え、「共に働くスタッフが生き生きと働くことのお手伝い」であり、そのためには、自分が生き生きと楽しく働くことだと捉え直しました。

周りに支えて頂きながら、できそうなところから形にしていきます。よろしくをお願いします。

わだ すみ

管理部長の

こだわりヘルシー美食 25

近森会管理部長 川添 昇

平成23年は随分いろいろなことがあった。辛い事、嬉しい事、まさに悲喜こもごもであった。

原発事故もまさしく「パンドラの箱」

であったが、急いで蓋をしたために「希望」が残ったという話なので、一刻も早くの終息が待たれる。

それにしても、東北は海山の恵みの多いところである。特に三陸から南下する海産物は特にそうである。日本一の赤貝の水揚げのある宮城・^{のり}関上の復興が待たれる。

今回は高知の魚をつかった「擣り身(スリミ)の天ぷら」



画・臨床栄養部科長 吉田 妃佐

〈作り方〉

- ①、魚屋さんで、スリ身を1パック買ってくる
- ②、タマネギ、青ネギのみじん切り
薄く切ったささがきゴボウ（アクを取って）、茗荷等
- ③、①と②と卵の黄身をませ（塩、白身は不要）
- ④、③を5センチ位の大ききで分ける
- ⑤、④を中火でフッと揚げる（キツネ色になるまで）

〈食べる〉

揚げたてのアツアツを食べるのが肝要なので、飲み物や他の食べ物（つまみ）は、すっかり構えておくこと。

まずスパークリングワインで喉を潤おし、ユズポン酢をチョッと付けてカプリと口の中に。

アチッチーと言いながら油の濃厚な味とスリミのホクホクした旨味が遭遇し、後からタマネギの甘味が追っかけてくる。ゴボウもしっかりその存在を主張する。ムフ、ウマイ!

それからスパークリングをウグウグ飲む。天ぷらが無くなるまでこれの繰り返しである。それがすっかり終わると「ウーン、次はダバダ火振（栗焼酎）にするか」などと言って続いて行く。おじさんの冬の夜は長い。

お知らせ

①【地域医療講演会】

H24年1月13日(金) 18:30~20:00

「ひきこもりの現状から

～当事者、家族の思いを支える

医療機関のアウトリーチ～」

講師：国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所社会復帰研究部

部長 伊藤順一郎先生

場所：近森病院管理棟3階大会議室

②【医療安全セミナー】

H24年1月21日(土) 10:00~12:00

「安全に排泄するための動作」

主催：近森リハビリテーション病院

医療安全委員会

場所：近森病院 管理棟3階大会議室

③【FIM講習会】

H24年2月11日(土) 13:00~17:30

講師：川崎医科大学医学部

リハビリテーション科教授椿原彰夫先生

近森リハビリテーション病院

リハビリテーション科科長和田恵美子他

初めてFIMを勉強される方を対象に、FIM総論、運動項目、認知項目をわかりやすく解説いたします

場所：近森病院管理棟3階大会議室

④【第2回近森病院・

国立病院機構高知病院合同パス大会】

H24年2月26日(日) 13:00~

「TUR-Btのパス」

場所：国立病院機構高知病院

地域研修センター

平成 23 年度 職員がん検診を終えて

近森会健康保険組合事務局長
田村 裕彦



近森会の健保組合では平成 21 年 9 月の設立後まもなく、職員に対して保健事業の実施に関するニーズ調査を行いました。その結果、多くの女性職員から、乳がん、子宮頸がんの検診について希望が強いことが判り、平成 22

年度より被保険者を対象とした検診車による検診を開始しました。今年度より 10 月と 11 月に 5 日間にわたって実施し、約 250 名の検診を終了したところです。

昨年度にがん検診の受診希望を調査したところ約 500 名の希望者があり、1 日当りの対応キャパシティの関係で昨年度と本年度に半分ずつ振り分ける

形としましたので、本年度でようやく 1 クールを終了したことになります。

ただ本年度については産業医や専門医からいただいたアドバイスをもとに受診方法を年齢別に変更し、マンモグラフィは原則 40 歳

以上の希望者に限定し、40 歳未満は必要時には乳腺エコーを後日受診できるようにし、セルフチェックや視触診を中心とした検診としました。

また、子宮頸がん検診は希望者全員を対象としており、母体事業所で昨年から実施している子宮頸がんのワクチン接種と相まって、職員にもかなり関心をもって受診していただけたのではないかと思います。

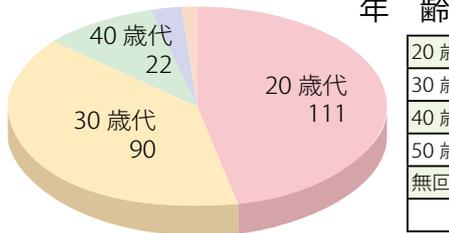
検診実施前のアンケートでは、乳がん、子宮頸がん検診は仮に自院で検診が可能であったとしても、顔見知りの中ではなかなか受け辛いという意見や、また外部検診機関で受診となると仕事を休まなければならないという意見も多く、検診車に来てもらう形が負担は少ないのではないかと判断しました。

ただ、平均年齢が 33 歳と若い当組合においてはマンモグラフィより乳腺エコーが望ましく、検診車でそれが出来ないか検診機関に相談しているところです。また、来年度からは健康管理センターや検査部門の協力を得ながら 55 歳、60 歳、64 歳の男性職員の希望者には職員健診のなかで前立腺がん検査を計画しており、来年度以降もがん検診の幅を広げて行きたいと考えています。

たむら ひろひこ

がん検診アンケート結果

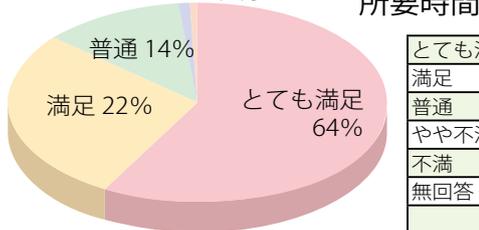
50 歳以上 6 無回答 4



年齢

20 歳代	111
30 歳代	90
40 歳代	22
50 歳以上	6
無回答	4
合計	233

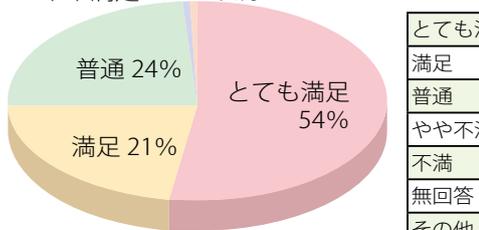
やや満足 0% 不満 1%



所要時間

とても満足	146
満足	52
普通	33
やや不満	0
不満	1
無回答	1
合計	233

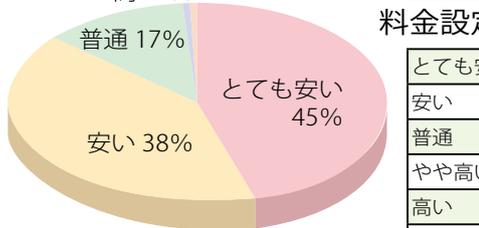
やや満足 1% 不満 0%



待ち時間

とても満足	126
満足	48
普通	55
やや不満	3
不満	0
無回答	0
その他	1
合計	233

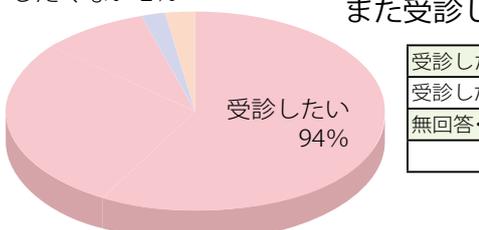
高い 0%



料金設定について

とても安い	104
安い	89
普通	39
やや高い	1
高い	0
合計	233

受診したくない 2% 無回答他 4%



また受診したいですか

受診したい	219
受診したくない	5
無回答・その他	9
合計	233

職員旅行

イタリア / モルディブ / 韓国

イタリアは▶フィレンツェの町が一望できる大聖堂（ドォーモ）にて▼水の都ベネチアの gondola に揺られ



▲モルディブ共和国のモスクのなかで。▼透き通る海でスキューバーダイビングも満喫しました



◀韓国のソウルで民族衣装に身を包み

榊原記念病院での循環器看護研修を終えて コメディカルが充実する 近森病院

近森病院 4階東病棟
看護師 田井 遥



病棟をはじめ、成人病棟、ICU、CCU、準CCU、NICUに分けられています。私は、CCUで成人の急性心筋梗塞、狭心症、心不全、重症不整脈、心臓血管外科術後の患者さんを担当させていただきました。

とくに急性心筋梗塞の患者さんが多く、迅速な処置対応に看護師として関わるなかで、コメディカルと連携し、チームで治療を行っていくことの重要性をあらためて再確認することができました。また、重症患者さんに対する濃厚な治療やケアに関わることで、アセスメントする力を高めることができたと思います。

要因分析を行うことで予測できる合併症の予防、合併症を視点を置いた患者指導や精神的ケアなど、今後の近森病院での看護活動に活かしたいと考えています。

研修を終えて改めて思うことは、

平成23年5月から10月までの半年間、東京都府中市にある榊原記念病院で研修を受けてきました。

榊原記念病院は循環器専門病院で、小児、成人の急性期から慢性期疾患までの診療を行っており、心臓カテーテル件数および心臓大血管手術件数は国内でも有数の症例数で知られています。また、国内でも臨床試験段階である大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁植え込み術（TAVI）も行われています。

ベッド総数は320床あり、小児

近森病院はコメディカルが充実しており、患者さんの回復に向けて互いの専門性を尊重しながらも、その垣根をこえて自由にディスカッションできる横断的な風土が大きな強みであると感じました。

研修での学びを生かし、チーム医療の一員として患者さん中心の看護が行えるように頑張りたいと思っています。 たい はるか



気持は 火の鳥ニッポン

近森病院 5階東病棟
看護師 岡 ちひろ



社会人になっていろいろなことを始めました。いちばんはバレーボールでしようか。

バレーを始めて4年、安定したバレーができる様に日々練習をしています。昨年のワールドカップ女子バレーでは粘り強さとレシーブ力の凄さにはくぎ付けになってしまいました。

チームワークの良さ、繋がることの感動を見ました。身長の高い選手が多い日本ですが好成績を遺していることに感動です。

私も、技術の光るプレーを目指して今日もバレーに行ってきます。

おか ちひろ

リレーエッセイ

料理との出会い



管理部施設用度課
伊藝 茂



ルーを入れ出来上がり（他に具はなし）、今風にいえば具なしカレーチャーハンです。ハハハ。

あれから数十年 そろそろ料理といえる物が作れるようになり、妻が仕事が遅い時など台所に立っております。今からの季節は、沖うるめの天婦羅がおすすめです。安くて美味しく家計にやさしい。

大きめの沖うるめを買い冷凍庫に30分位入れる（そのまま調理すると身が柔らかいためむずかしい）。頭をとり3枚にしワタをのけ塩コショウをする。天婦羅粉につけ揚げる。

いげい しげる

私が料理を作るというか、作らされるきっかけは高校2年の頃、仲良しの3人の友が週に3日ぐらい泊まりに来るようになり、夜ともなると腹が減った何か食わせてくれ〜と。

今まで料理といえるものは作ったことがなく、出来るといえば袋入りのラーメン焼きそばぐらいで、それを何度か食べると（飽きた）、焼飯が食いたいとか、いいたい放題。焼飯…、味付は？ 冷蔵庫のなかでカレールーを見つけ炒めた御飯に細かく削ったカレー

近森会グループでの研修を終えて 看護師としてどうありたいのかを 考える貴重な時間に

徳島県立三好病院看護局
技術主任 辻岡 真紀

徳島県立三好病院は県西部唯一の総合病院で、美馬市も含め、主に三好市を診療圏としている。山間部が多い診療圏は人口の高齢化が進行し、へき地医療拠点病院として地域に密着した役割を果たしており、救急医療の占める割合が高く、二次救急、三次救急に対応。平成17年に救命救急センターを開設、救急医療の拡充強化を図っている。平成22年度の救急患者受入れ数は7114件、そのうち救急車受入れ件数は1708件となっている。



私の勤務する三好病院では、医師不足の問題の他にも、チーム医療が促進されていないと、常に感じていました。そこで、チーム医療に関する姿勢、知識、実践を学ぶことを目的として1カ月間の実地研修に参加することになりました。

近森リハビリテーション病院の研修

研修初日、緊張と不安の面持ちで近森病院を訪れましたが、職員の皆さんに笑顔で迎えていただき緊張がほぐれました。まず10日間、近森リハビリテーション病院で研修させていただきました。

多職種でチームを組み、入院当日に評価、診断を行い、共通した理解と対応が図れるよう、カンファレンスを通じて適切な環境整備、訓練プログラムの策定、実施が行われていました。患者の生活に共通の視点を置くことで目標が設定でき、その目標に向かって患者、家族、医療職の意志を統一していくことが、リハビリには重要であると

思いました。

患者と接する時間が最も長い看護職は、医師、リハビリチームと患者との橋渡し役としての役割を担っており、患者と家族の意向、潜在能力、マンパワーの検証を丁寧に行うことで在宅につなげることができているのだと思いました。

訪問看護ステーションちかもりの研修

次に、訪問看護ステーションちかもりで研修させていただき、初めて訪問看護を経験することができました。訪問先の利用者は様々な問題を抱えていましたが、住み慣れた家庭において療養生活を送ることを望んでいました。病院や施設だけでなく、在宅においても地域内でトータルのケアを行えば、利用者の安心につながると思いました。「地域は地域で支えなければならない」と中西所長のいった言葉がとても印象的

でした。

近森病院での研修

急性期医療を中心としたチーム医療体制を充実させており、高度な医療、設備、システムが整った近森病院で、最後に研修させていただきました。病床稼働率が100%を超えることにも驚きました。自部署だけでなく、看護部全体での病床管理を視野に入れながら病床調整するシステムがありました。そのため、適切に患者に病床が提供でき、スムーズな治療開始につなげることができていると思いました。

近森病院ではすべての医療職が専門性を発揮し、個々の能力を向上させているため、チーム力がさらに上がり質の高い医療が提供できているのだと思います。また、多くの職種が分業、協働しており、マンパワーの優れた病院であることを羨ましく思います。

最後に

最後になりますが外来センターのオープン、新館改築や立て替え工事で忙しいなか、ありがとうございました。研修では多くのことを経験し学ぶことができました。これまでの看護を振り返り、これから看護師としてどうありたいのかを考える貴重な時間を得ることもできました。研修で得た大きな財産をこれからの看護に役立てるよう、努力していきたいと思えます。

つじおか まき

MVP表彰 (受賞者敬称略)

近森会グループ MVP



●後列左から根岸正敏①、森澤恵②、米澤真理子③、西村剛④、井原則之⑤、西森公美④、楠瀬達也⑥、奥田興司⑥、●中列左から、窪川涉一⑦、●前列左から、福岡千左子⑨、近森正幸理事長⑧、小松智美⑨、北村麻美⑨、日浦利恵⑦

①救命救急センター、②救命救急病棟代表、③輸血検査室代表、④褥瘡対策チーム代表、⑤東日本大震災現地支援活動職員代表、⑥5ヶ年計画プロジェクトチーム代表、⑦外来センター運営委員会代表、⑧プレゼンター、⑨個人受賞

医療安全委員会 MVP / 近森病院第二分院 CVPPP チーム



●後列左からプレゼンター松永智香第二分院看護部長、堀内航介、萩原博、正堺元康、筒井恵美、森本修●前列左から、プレゼンター山崎正博委員長、上田秀彰、下元伸之

ハートセンター MVP



●後列左から、プレゼンター窪川涉一部長、入江博之部長、●前列左から、久家由美 (CCU 看護師)、大熊絵理菜 (MSW)、本久雄一 (PT)、和田佳晃 (診療放射線技師)

編集室通信

未曾有の大難の年が暮れようとしている。津波で多くのものを失ってほんとうに大切なことは何なのかに気づいた、という話を聞いた。大病すると人に優しくなれるとはよくいわれることだが、人が素晴らしいのは、「負」を背負ったときにこんな気づきがあるからだろうか。霖

図書室便り (2011年11月受入分)

- ・ The Trigger Point Therapy Workbook Yourself-Treatment Guide For Pain Relief Second Edition / Clair Davies (他著)
- ・ Foundations of Osteopathic Medicine Third Edition / Anthony G.Chila (他編)
- ・ Travell & Simons' Trigger Point Flip Charts / Janet G.Travell (他著)
- ・ Travell & Simons' Myofascial Pain and Dysfunction The Trigger Point Manual / David G.Simons (他著)
- ・ Vol.1 Upper Half of Body Second Edition Vol.2 The Lower Extremities
- ・ Harborview Illustrated Tips and Tricks in Fracture Surgery / Michael J.Gardner (他著)
- ・ OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準 20 下肢の難治性骨折・病態に対する手術 日常診療で困ったときのこの一冊 / 安田和則 (担当編集)
- ・ 手の外科の実際改訂第7版 / 津下健哉
- ・ 骨折に伴う静脈血栓塞栓症エビデンスブック / 日本骨折治療学会 (他編集)
- ・ 誰でもできるトリガーポイントの探し方・治し方筋の基礎からセルフトリートメントまで / Clair Davies (他著) 大谷素明 (監訳)
- ・ トリガーポイントブロックで腰痛は治る! どうしたらこの痛みが消えるのか / 加茂淳
- ・ ビジュアルでわかるトリガーポイント治療 / Simeon Niel-Ashier (著) 伊藤和憲 (監訳)
- ・ 歩いて来院する重症患者のトリアージ / 稲田眞治
- ・ 医療ガス知識と管理、教育・実践のガイドライン / 医療ガス安全教育委員会 (編集)
- ・ 2010年度 日本体育協会スポーツ科学研究報告書 / 福林徹 (他編集)

《別冊・増刊号》

- ・ 別冊 医学のあゆみ エピゲノム研究最前線 / 児玉龍彦 (編集)
- ・ 別冊 医学のあゆみ 本当はこどもに“使えない”薬の話—実際と、これをどう打開するか / 小嶋純 (編集)
- ・ 別冊 NHK きょうの健康「心臓・血管の病気」診断と治療が詳しくわかる / 小川久雄 (総監修)
- ・ 臨床スポーツ医学 2011 Vol.28 臨時増刊号 スポーツ損傷予防と競技復帰のためのコンディショニング技術ガイド / 臨床スポーツ医学編集委員会 (編集)
- ・ 泌尿器ケア 2011 年冬季増刊 泌尿器ケア Basic&Practice ウロナース サポートブック / 篠原信雄 (他監修)
- ・ デンタルハイジーン 別冊 歯科衛生士のための臨床インプラント講座 天然歯との違いを理解する・考える・伝える / 山口幸子 (他編著)
- 《視聴覚資料》
- ・ VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery Vol.18 No.1,2 / 永田泉 (他監修)
- ・ 整形外科卒後教育研修用ビデオシリーズ IV No.13 ロコモティブシンドロームの概念と実践 超高齢化社会における運動器の健康の再認識 / 日本整形外科学会 (監修)
- ・ 出直し看護塾 テキスト & DVD / 千葉義郎 (他監修) Vol.1 人工呼吸器 (サーボS) のトリセツ、Vol.2 心臓ペースメーカーの基礎、Vol.3 血液ガス解釈の基礎
- ・ 透析ケア 2011 年冬季増刊 付録 DVD 写真と動画でポイントと流れがわかる! 透析ナースのための機器操作と看護手技 / メディカ出版 (監修)

2011年11月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,497 人
新入院患者数	808 人
退院患者数	806 人

近森病院

平均在院日数	14.80 日
地域医療支援病院紹介率	94.24 %
救急車搬入件数	462 件
うち入院件数	241 件
手術件数	452 件
うち手術室実施	272 件
→うち全身麻酔件数	155 件

● 平成 23 年 11 月度県外出張件数 95 件 延べ人数 181 人 ●